

シオノギの現状と今後の展望

メリルリンチ ジャパン カンファレンス

平成20年9月16日

塩野義製薬株式会社
代表取締役社長 手代木 功



本資料には、将来の予想に関する記述が含まれています。これらの将来に関する記述は、「考えます」、「期待します」、「見込みます」、「計画します」、「意図します」、「はずです」、「するつもりです」、「予測します」、「将来」、その他、これらと同様の表現、または特に戦略、目標、計画、意図などに関する説明という形で示されています。多くの要因によって、本資料に述べられている将来の予測に関する記述と大きく異なる実際の結果が将来発生する可能性があります。かかる要因として、(1)マクロ経済の状況または医薬品会社の競争環境などの業界の一般的な状況、(2)規制、訴訟に関する事項およびリスク、(3)法制上の変化、(4)税法その他の法律の改正、一般的経済状況の変化が及ぼす影響、(5)取引を完了させるための条件が満たされないリスク、(6)取引のために必要とされる規制当局の承認が取得できないリスク、または、承認が得られても予測せぬ条件が付帯するリスク、(7)取引の遂行に関連するその他のリスクなどが含まれます。

リスクや不確実性は、特に既存および開発中の製品に関連した将来の予測に関する情報に存在します。それらには、臨床試験の完了ならびに中止、規制機関からの承認取得、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念の発生、技術の進歩などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。また、既存製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす能力を欠く状況、原材料の入手困難、他社との競合などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、将来の予測に関する情報を更新もしくは改正することが望ましい場合であっても、それを行う義務を負うものではありません。

本資料には、医薬品(開発中の製品を含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

その他の情報およびその入手先

本資料は情報を提供するためだけのものであり、Sciele Pharma, Inc.の普通株式の買付けの募集、あるいは売付けの募集を勧誘するものではありません。公開買付けは、Tall Bridge, Inc.が証券取引委員会(SEC)に届け出たSchedule TOによる公開買付け説明書(買収提案、送達状、その他の関連公開買付け文書を含む)に基づいて実施されます。随時修正される可能性のあるこれらの資料には、買付けの条件などの重要な情報が含まれることから、公開買付けに関する決定をされる前に熟読されるようお願いいたします。投資家および株主は、Tall Bridge, Inc.がSECに届け出るこれらの資料およびその他の文書を、SECのウェブサイトwww.sec.govから無料で入手することができます。この公開買付けに関する資料は、公開買付けの情報管理代理人であるGeorgesonに対して、銀行またはブローカーの方は1-212-440-9800へ、株主もしくはその他の全ての方は1-800-334-9586へ電話することにより、または199 Water Street, 26th Floor, New York, NY 10038へ郵便にて請求の上、無料で入手することが可能です。

第一次中期経営計画

(2000年4月－2005年3月)

～医療用医薬品事業へ集中するための基盤整備～

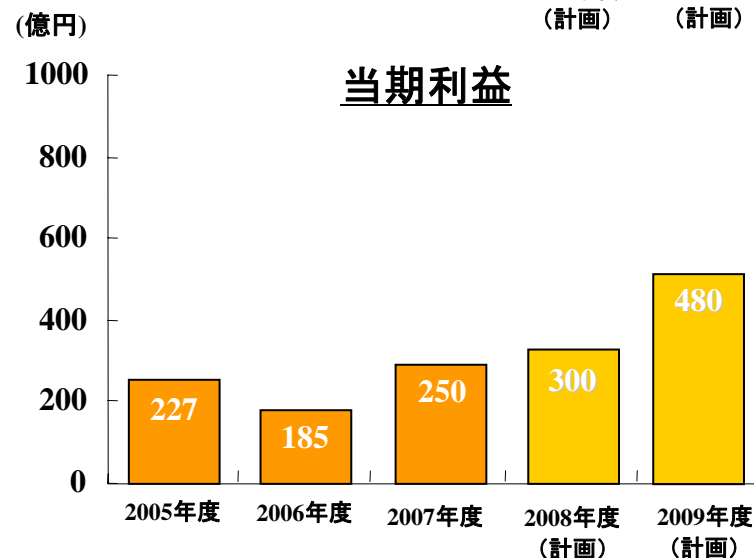
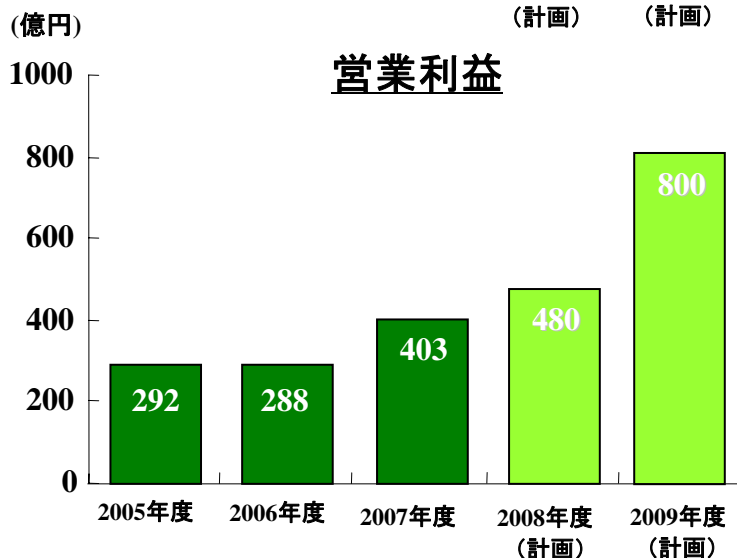
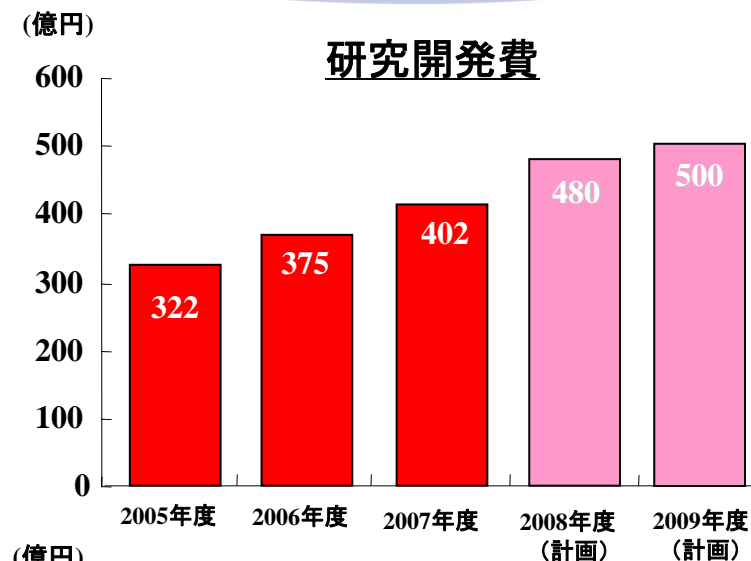
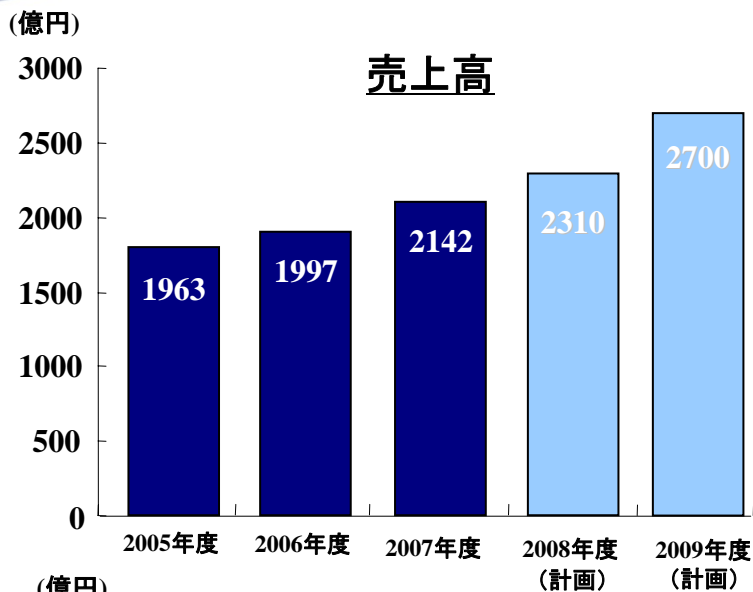
第二次中期経営計画

(2005年4月－2010年3月)

～飛躍への胎動～

- ◆ クレストール®の最大化(ロイヤルティおよび国内売上)
- ◆ 研究開発の活性化
- ◆ 国内市場での新製品の上市(期間中10製品の上市を予定)

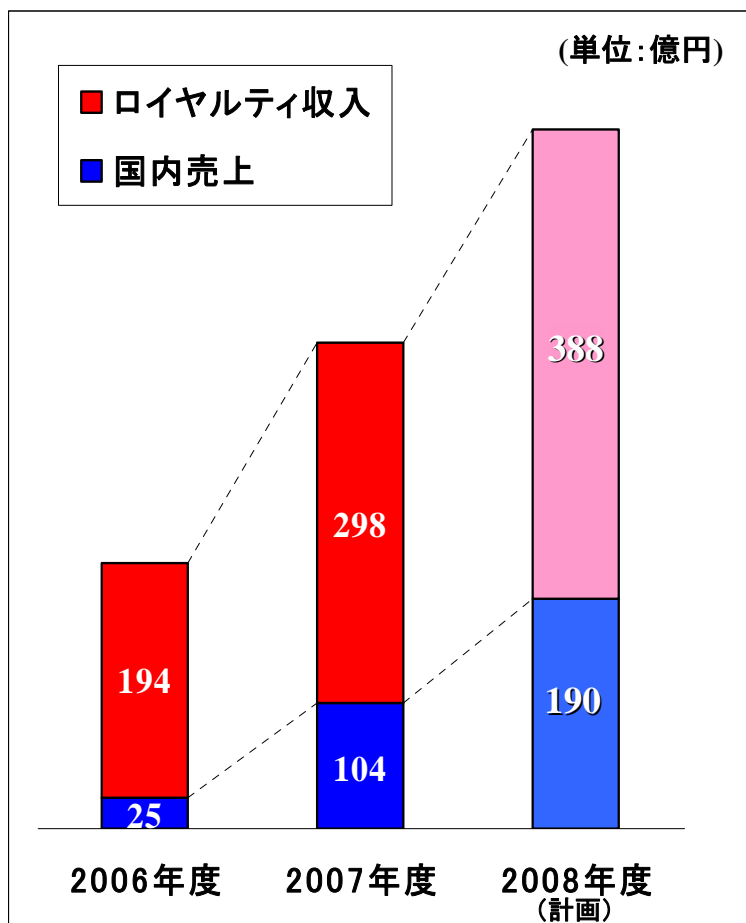
第二次中期経営計画の数値目標(連結)



クレストール®の拡大



国内売上・ロイヤルティ収入の拡大



◆ ロイヤルティ収入

- AstraZeneca社によるグローバルセールスの拡大

(単位:十億ドル)

クレストール 売上高 (グローバル)	2006	2007	2008(上期)
	2.0	2.8	1.68

◆ 国内販売

- 販売シェアの順調な拡大

(単位:%)

	2006	2007				2008
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
クレストール (国内合計)	4.0	5.3	7.0	8.5	10.5	11.2

(薬価ベース)

国内市場での新製品の上市

(第二次中期経営期間中10製品の上市を予定)



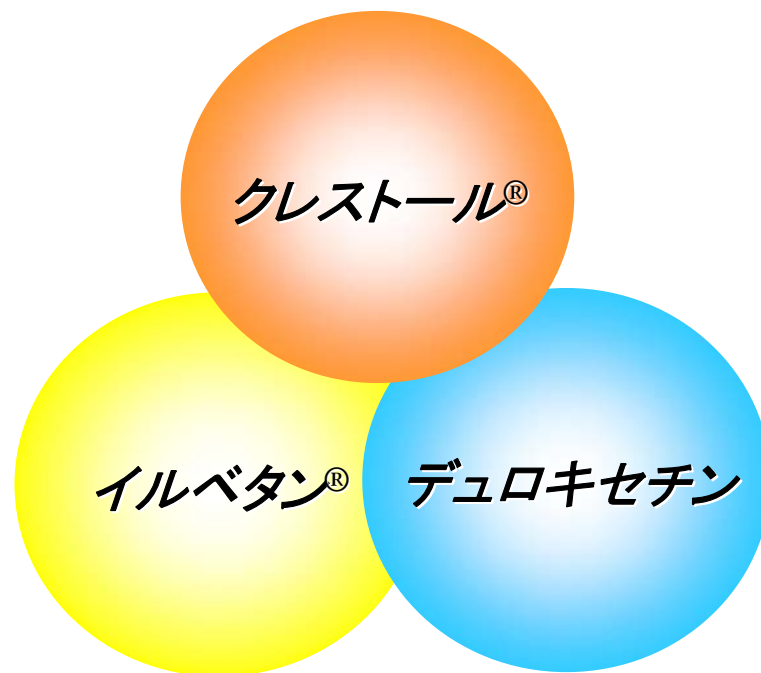
(2008年9月現在)

	申請	上市
重点3領域 感染症		フィニバックス® (2005年度)
		アベロックス® (2005年度)
		オキノーム® (2006年度)
		クレストール® (2005年度)
疼痛		イルベタン® (高血圧症) (2008年7月発売)
		クラリチン® ドライシロップ (2007年度)
MS		ピルフェニドン (特発性肺線維症) → (2008年度)
		デュロキセチン (うつ) → (2009年度)
フロンティア領域 アレルギー		ディフェリン® (にきび) (2008年7月承認)
		セトロタイド® (2006年度)
その他		

■ 自社品

■ 導入品

◆ 2010年以降の成長ドライバー

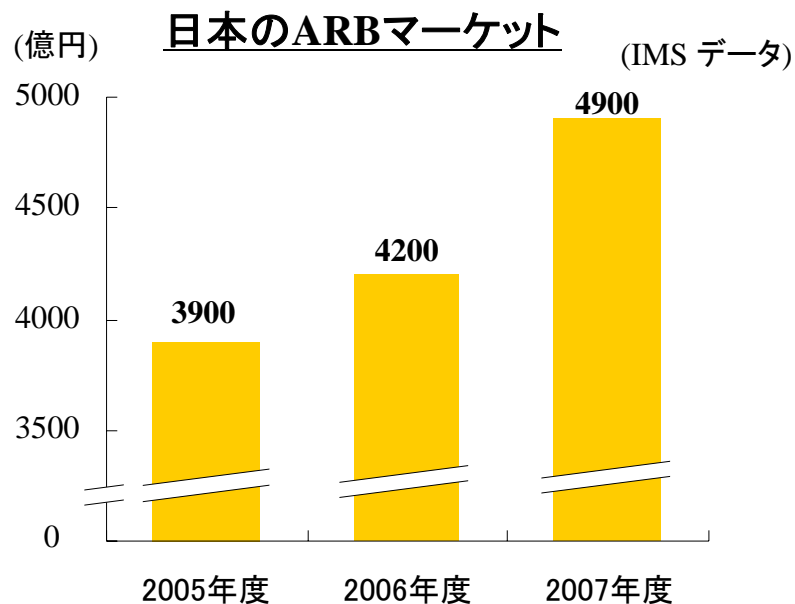


2010年以降の成長ドライバー



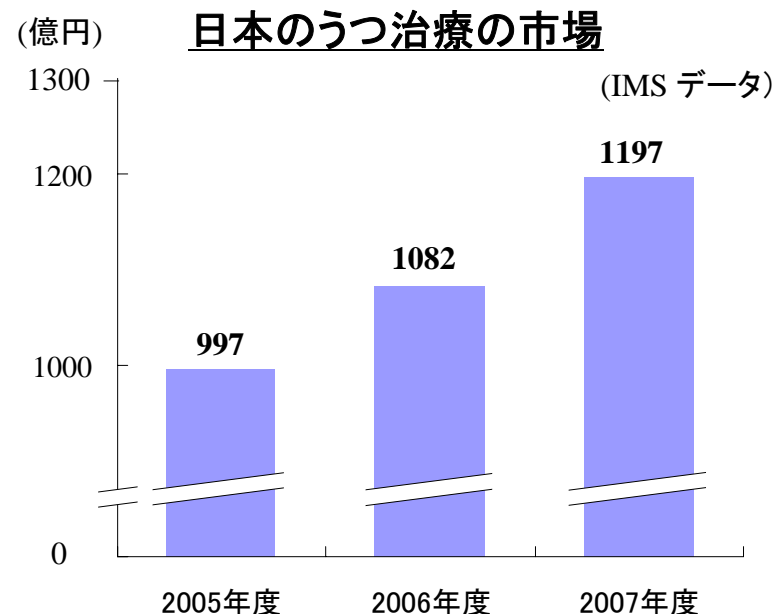
イルベタン® (高血圧)

- ◆ サノフィ・アベンティス社とブリストル・マイヤーズ社により、109ヶ国で承認、86ヶ国で発売
- ◆ 日本のARB* 市場は毎年2ヶタペースで成長



デュロキセチン(うつ&DNP)

- ◆ うつの適応で90ヶ国以上, DNP(糖尿病性神経因性疼痛)の適応で70ヶ国以上の国で承認
- ◆ 日本のうつ治療の市場は急速に拡大



* Angiotensin II receptor blocker

第二次中期経営計画

- ◆ 2009年度末にはPhase II 以降に最低5品目以上を創出
- ◆ 日米欧3極で複数の自社製品を同時開発
- ◆ 製品毎に戦略的なアライアンスを継続的に展開

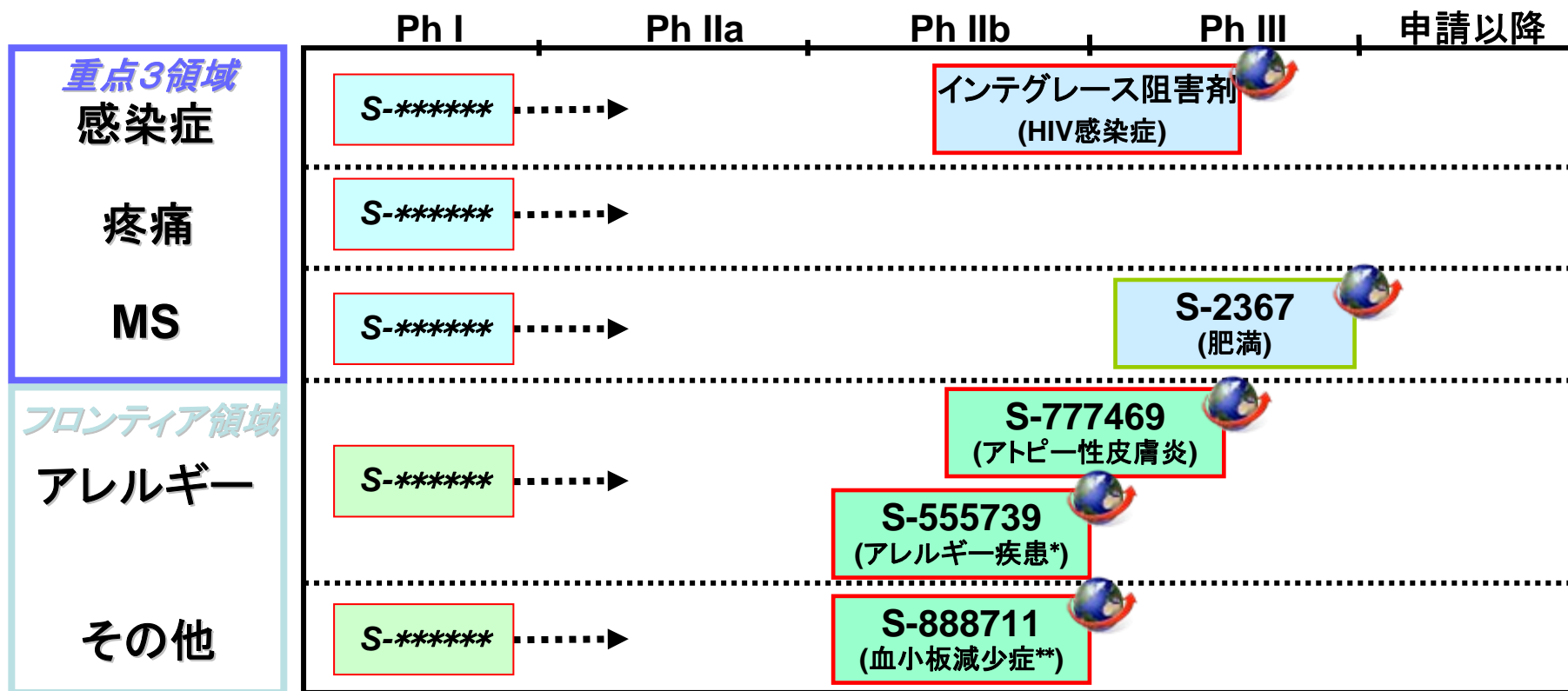
中長期的な課題

- ◆ 米国での販売体制の確立
- ◆ 継続的な自社パイプラインの拡充
- ◆ グローバル化に対応できる人材の育成

自社創製のグローバル開発パイプライン: 目指す開発状況(2009年度末)



- ◆ 自社品の臨床開発が順調に進展
- ◆ 海外での販売体制の整備が急務となりつつある状況

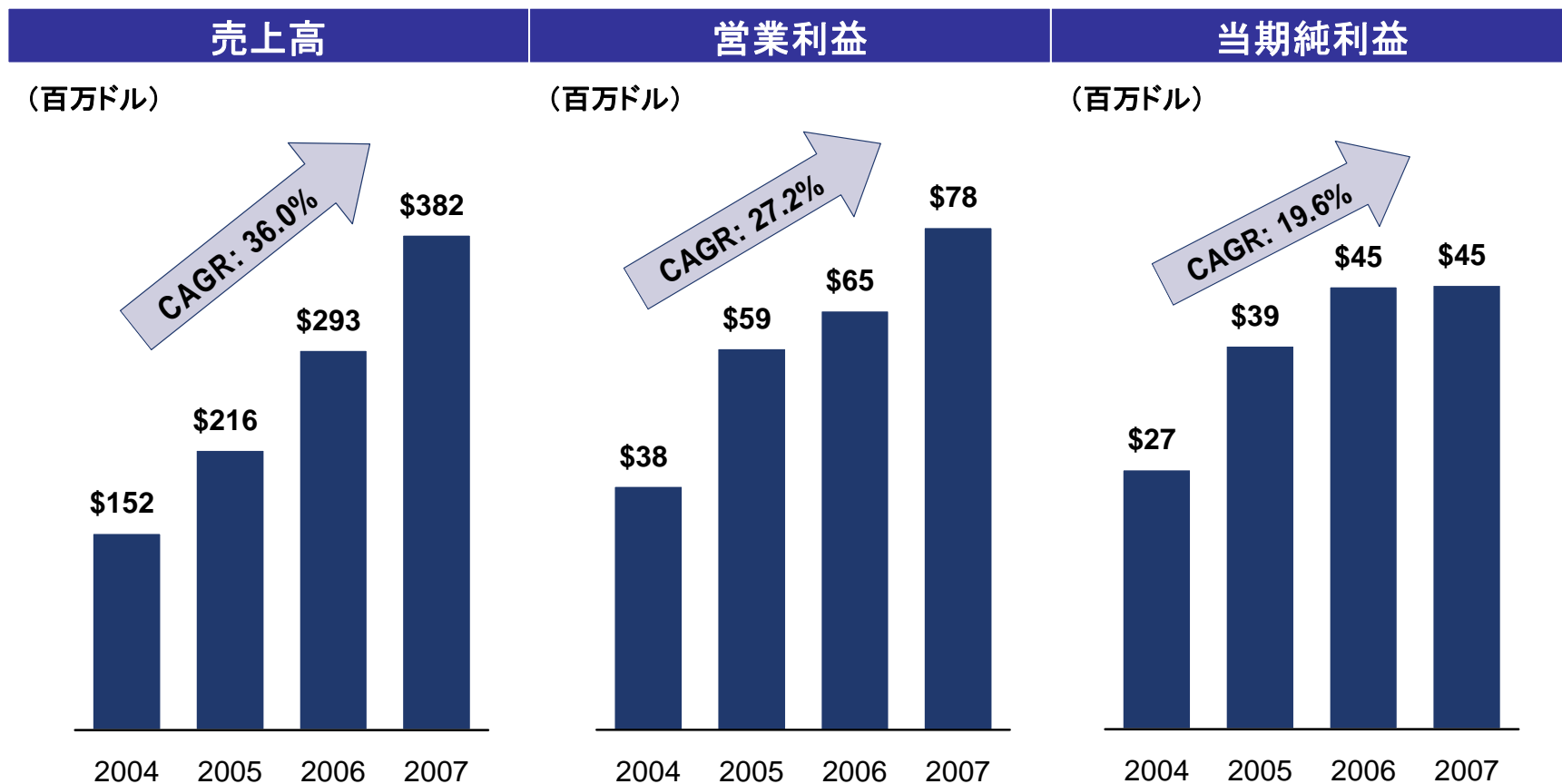


* アレルギー性鼻炎, 喘息等

** 特発性血小板減少性紫斑病, C型ウイルス肝炎, 癌化学療法等

 自社創製グローバル開発品

Sciele社の概要: 高い成長率と安定的な収益性



CAGR = 2004年~2007年の年平均成長率
出所: 会社開示資料、2007 SEC 10K Filings

Sciele社の概要：Sciele社の競争力



営業・マーケティング力

- ◆ 全米にわたる700名超の営業員
- ◆ 能力給と明確な数値目標管理の徹底により、優秀な人材を確保すると共に能力向上を推進
- ◆ 保険機関対応の専門チームが良質な関係構築と交渉を実行し、製品単価のアップを実現

製品ポートフォリオ

- ◆ 循環・代謝領域、婦人科領域、小児科領域を軸としたバランスのとれたポートフォリオ
- ◆ 特化した各領域において、安定的な成長と収益性を実現

新規パイプラインの発掘・導入能力

- ◆ Phase II、IIIのニッチ製品を中心に発掘
- ◆ 長年にわたって蓄積された事業開発チームの広範な人脈ネットワークとノウハウ
- ◆ 数多くのパイプライン候補の迅速な獲得と高い上市能力

経験豊富な経営陣と人材

- ◆ スピードを重視した経営判断と実行能力
- ◆ 製薬業界における豊富な経験
- ◆ 強力なリーダーシップとチームワーク

高い成長率と安定的な収益性の維持を実現

本買収により期待される効果



- ◆ 米国での販売体制の飛躍的強化
 - 700名超のMRによる全米での販売網
- ◆ 営業インフラ構築の時間とコストを回避
 - 米国での上市・販売に関する優秀なノウハウの活用
- ◆ 領域の親和性による相乗効果を追求
 - 循環・代謝領域等の当社重点領域における販売実績
- ◆ 有力なパイプラインを自社販売することによる収益力向上
 - 米国における共同販売のみならず、自社単独での販売が実現可能
- ◆ 米国市場での着実な経営実績
 - シオノギのグローバル人材育成への期待

第二次中期経営計画の達成へ向けて



- ◆ 研究開発領域への一層の傾注
 - S-2367 / S-349572 / S-777469
 - S-555739 / S-888711
 - 今年度中に更に3化合物のPhase I を予定

- ◆ 国内販売の着実な進展：SFEの向上へ向けて
 - クレストール[®]、イルベタン[®]
 - 新製品群：フィニバックス[®]、ディフェリン[®]、ピルフェニドン

- ◆ Sciele社のスムーズな協業体制への移行

参考資料

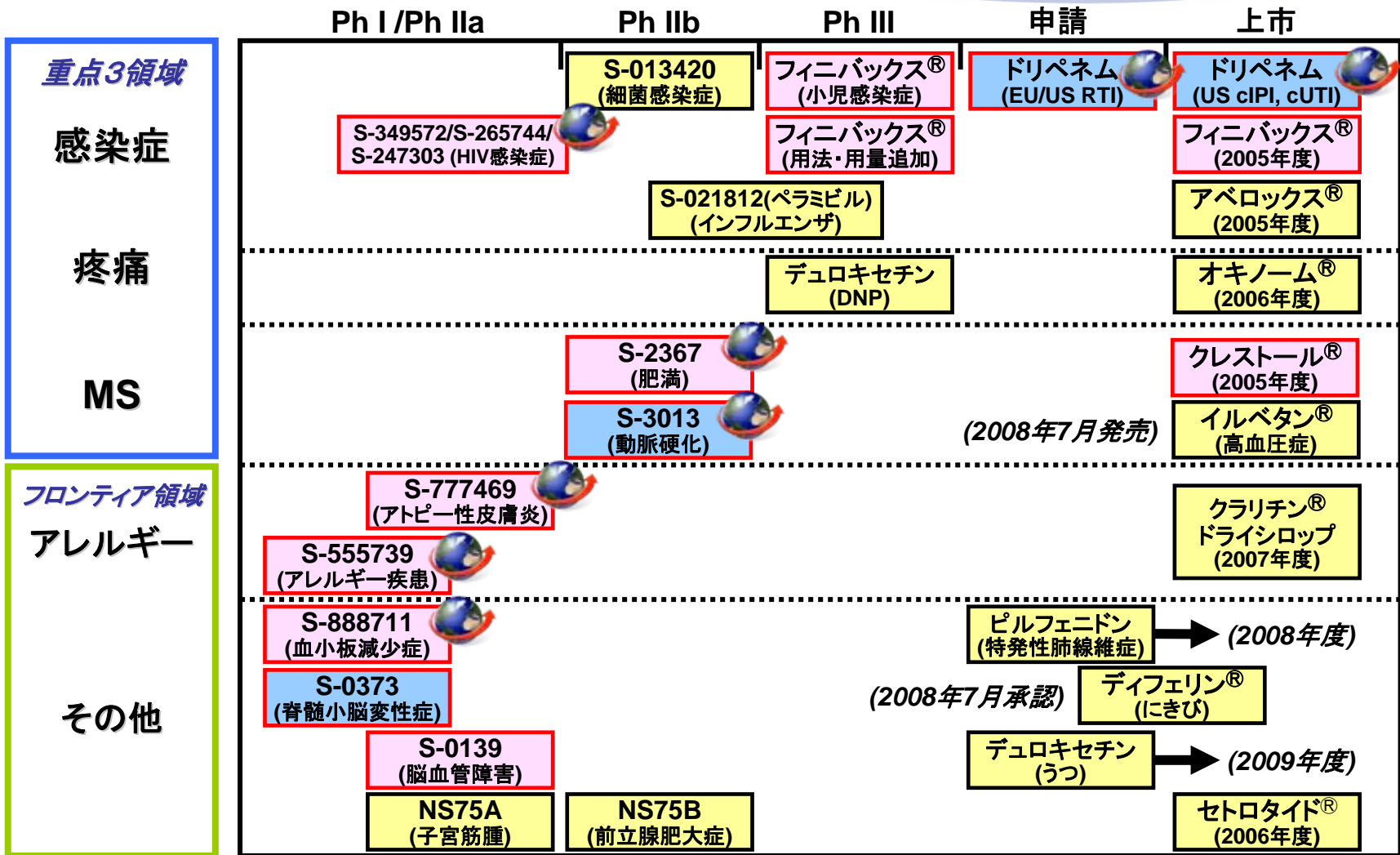
- ◆ パイプライン
- ◆ Sciele社の概要



主要なパイプライン



パイプライン一覧 (2008年9月現在)



RTI: 呼吸器感染症, cIPI: 複雑性腹腔内感染症,
cUTI: 複雑性尿路感染症, DNP: 糖尿病性神経因性疼痛

自社品

導出品

導入品



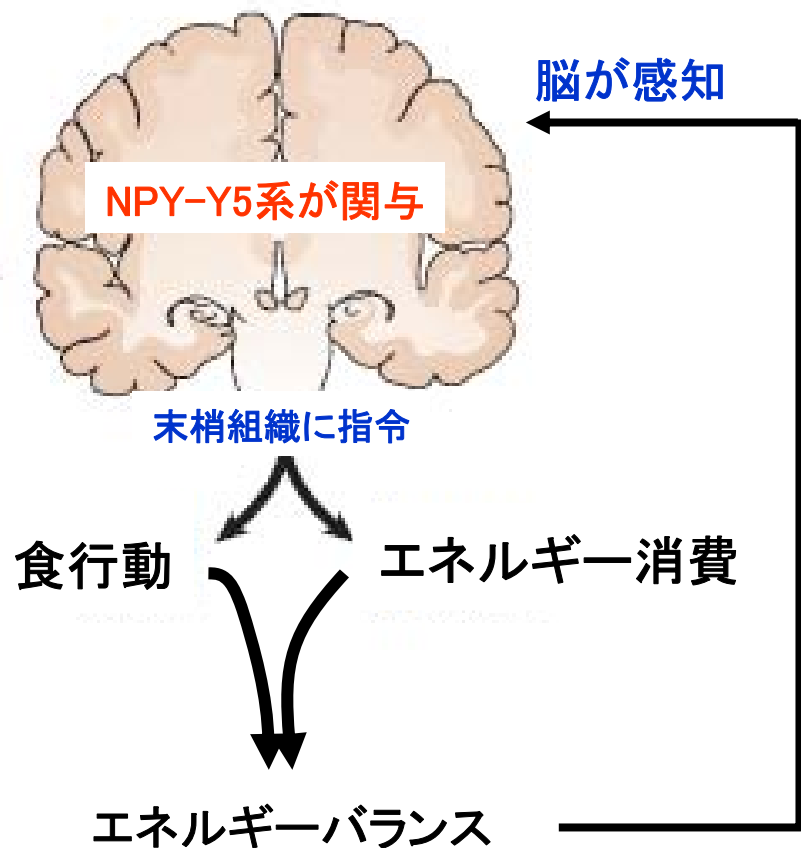
自社創製グローバル開発品

- ◆ 抗肥満薬（経口）
- ◆ ニューロペプチド Y受容体 Y5サブタイプ拮抗剤
- ◆ 非臨床試験成績
 - エネルギー消費の亢進
 - 内臓脂肪の蓄積抑制, 血糖値ならびに血清脂質の改善
 - リバウンドのない持続的な体重増加抑制効果
 - 高い安全性
- ◆ 臨床試験成績
 - 1日1回投与（血中半減期約20時間）
 - 米国でのPhase IIa 試験においてPOCを獲得
 - 高い安全性を有し, 問題となる中枢性の副作用認められず
 - うつ, 不安スコアに悪影響なし

米国にてPhase IIb 試験実施中

脳により厳密に制御

視床下部に存在するニューロペプチドY (NPY)が深く関与



NPYの機能

Y5受容体を介して、

1. 食欲亢進 ➡ エネルギー摂取増加
2. エネルギー消費抑制

本来、体の維持に必要なエネルギーを得るために働き、エネルギー状態に応じて活性が変化すると考えられている

不規則な生活, 栄養価の高い食事

- ➡ 脳による制御の乱れ
- ➡ NPYの働きが常に活発化
- ➡ 肥満

S-2367

NPYの受容体 (Y5) に結合し、
過剰なNPYの働きを正常化

S-2367: Phase IIb 試験の概要

◆ 試験1

- RCD (減カロリー食) リードイン, その後RCD下でS-2367を投与
- 計750例
- 最高用量1600 mg

◆ 試験2

- LCD (低カロリー食) リードイン, その後RCD下でS-2367を投与
- 計750例
- 最高用量1600 mg

◆ 1年間の長期投与での薬効ならびに安全性を評価

- Phase III 試験の確度向上のため
- 半年投与時点で中間解析を実施
- 2008年内に投薬完了予定

2008年5月, RCD試験及びLCD試験の両試験(両用量群)について、試験の継続を推奨された

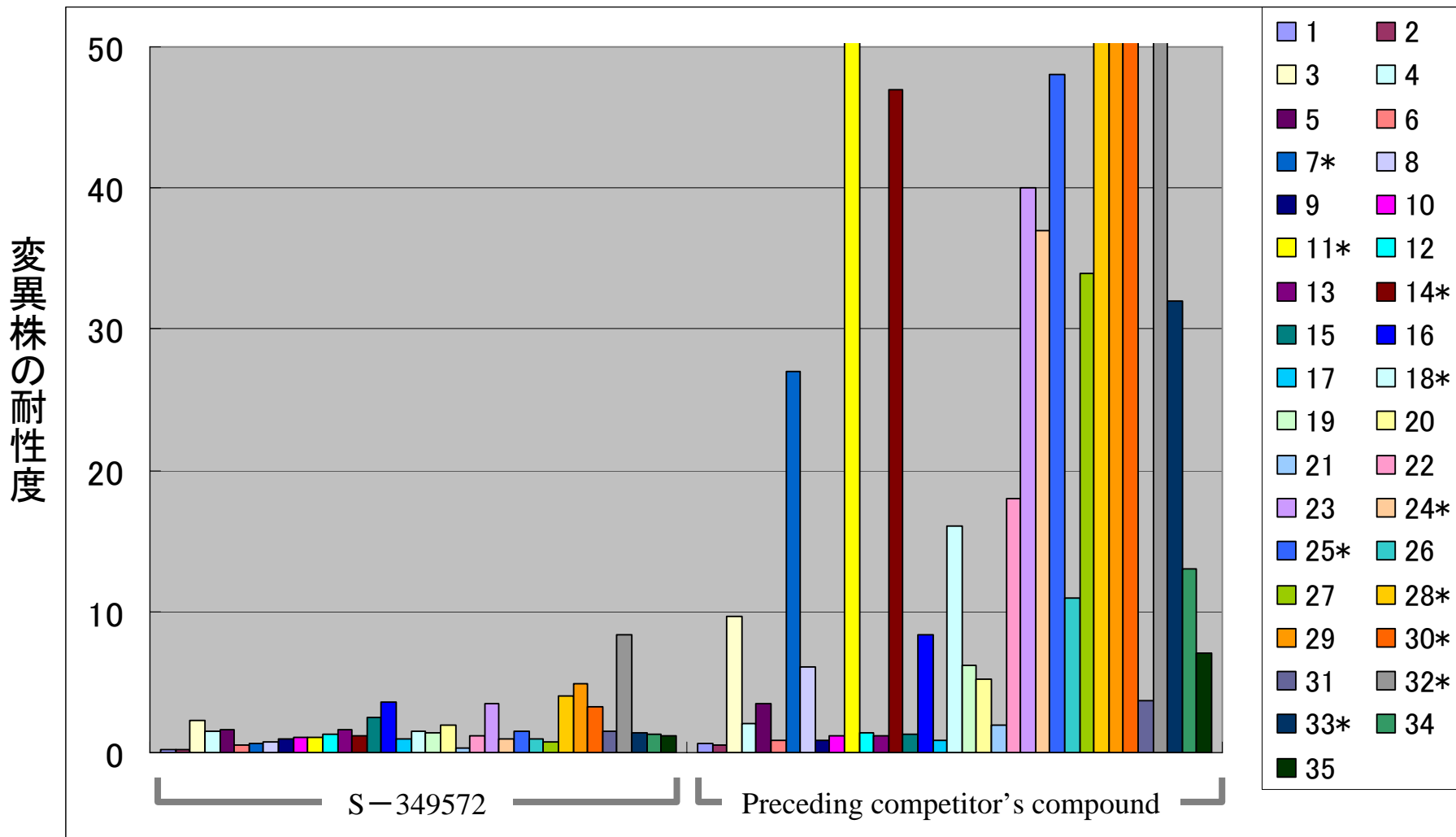
S-349572/S-265744/S-247303: 化合物プロファイル



- ◆ Shionogi-GlaxoSmithKline Pharmaceuticals, LLCでの開発
- ◆ インテグレース阻害薬（経口）
- ◆ 特徴
 - 強いHIV複製阻害活性
 - 良好な耐性プロファイル
 - 良好な薬物動態プロファイル
 - 薬物相互作用を引き起こす可能性が低い
- ◆ 市場性
 - HIV感染者数は約3,300万人（World Wide）

2008年6月, S-349572のPhase IIa試験を開始

S-349572: 他社先行化合物耐性ウイルスに対する in vitro 活性



* 先行化合物の臨床耐性ウイルス

S-777469: 化合物プロフィール



- ◆ 適応疾患: アトピー性皮膚炎
- ◆ 選択的カンナビノイド2受容体アゴニスト (経口)
- ◆ 薬効上の特徴 (非臨床)

- マウスにおける各種起痒物質による引っ掻き行動を抑制
- 皮膚炎モデル動物において皮疹改善効果
- 高い安全性

止痒作用

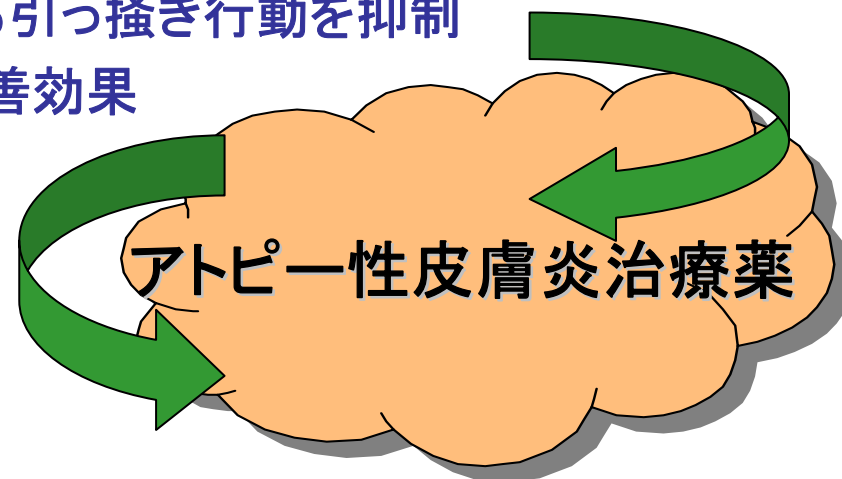
抗炎症作用

- ◆ ポジショニング

⇒ 本領域では **First-in-Class**

- ◆ 市場性

- アトピー性皮膚炎を含む湿疹皮膚炎推定 3,000万人 (JP, US, EU)

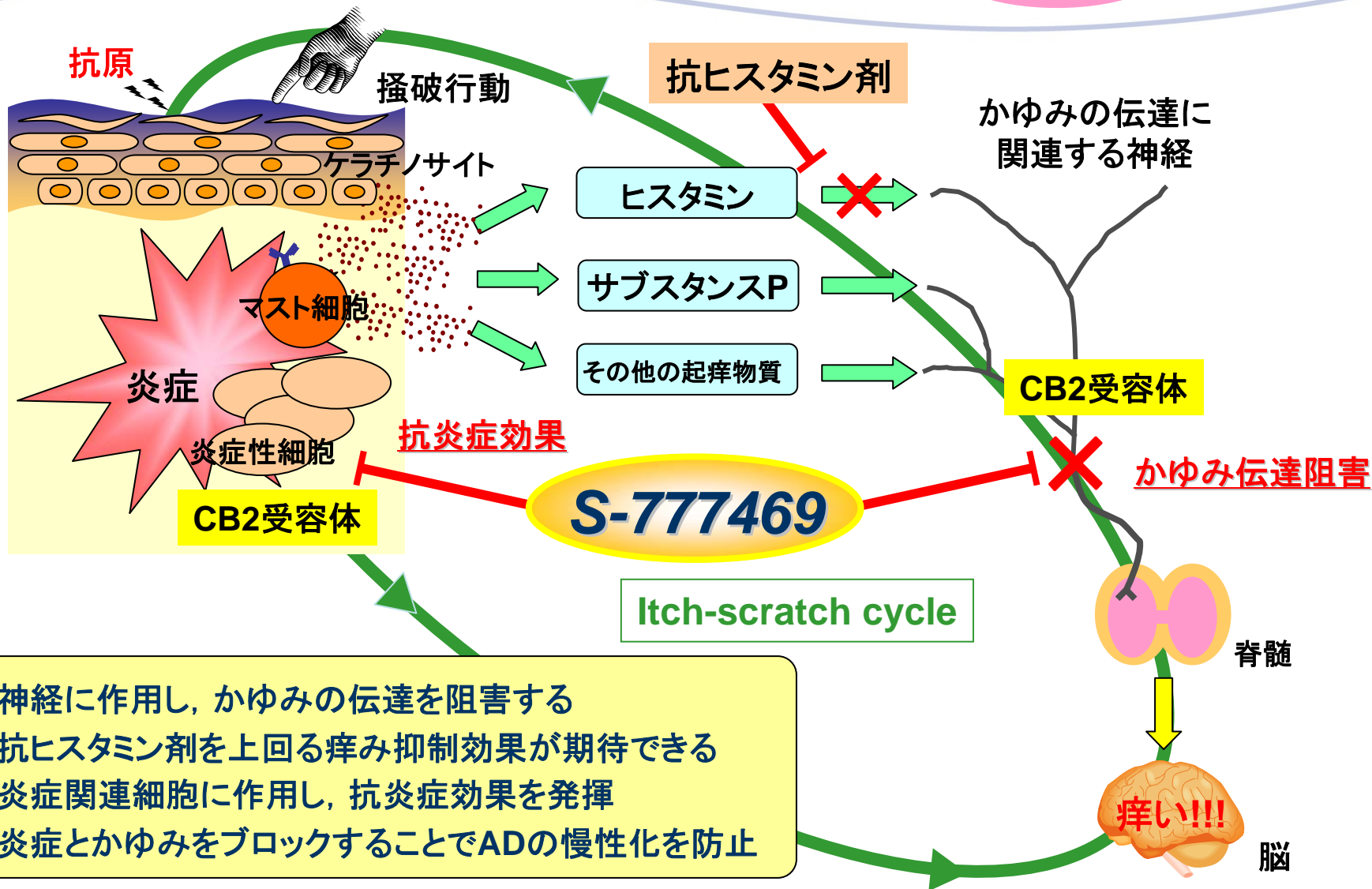


国内及び米国でPhase IIa 試験実施中

S-777469: 作用コンセプト



R&Dより



◆ Phase I 試験

● 日本

- ・ 健康成人を対象とした14日間反復投与試験を実施
 - 良好な忍容性を確認
 - 50mg～800mgまで用量依存的に血中濃度が上昇

● 米国

- ・ アトピー性皮膚炎患者を対象とした14日間反復投与試験 (Phase Ib/IIa)
 - 投与終了

◆ Phase II 試験

● 日本

・ Phase IIa試験

- アトピー性皮膚炎患者を対象に, 2008年1月より症例登録開始
- そう痒と皮膚症状を評価 ⇒ 2008年3Qに結果判明予定

● 米国

・ Phase IIa試験 (アトピー性皮膚炎患者対象)

- 2009年2Qに結果判明予定

S-555739: 化合物プロファイル



- ◆ 適応疾患: アレルギー性鼻炎から開始
- ◆ プロスタグランジンD2受容体拮抗薬 (経口)
 - S-5751の後継品: より優れた受容体阻害活性と良好な薬物動態特性
- ◆ 薬効上の特徴 (非臨床)
 - 既存抗アレルギー薬を上回る鼻閉に対する強力な抑制効果
 - 1日1回投与で有効
 - 高い安全性
- ◆ ポジショニング
 - 既存抗アレルギー薬では十分なコントロールができない鼻閉の治療薬
- ◆ 市場性
 - 鼻炎患者は推定 6,400万人 (JP, US, EU). 内, 鼻閉診断率は推定60%

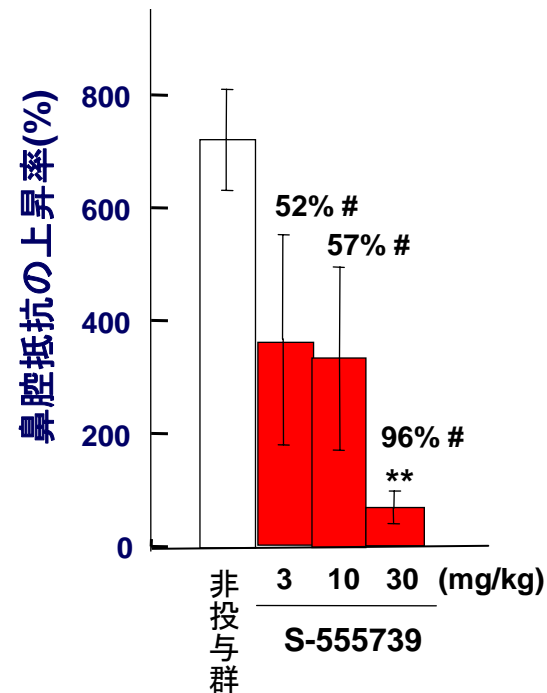
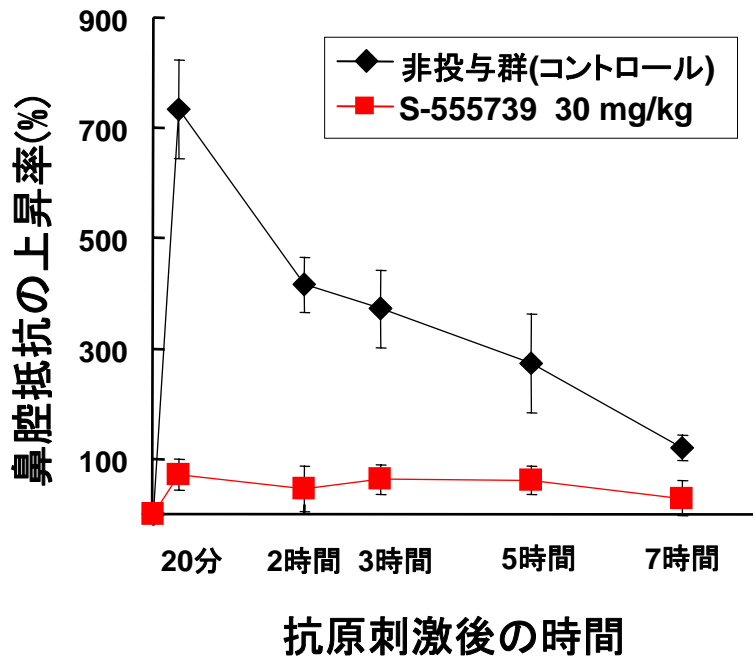
国内及び欧州でPhase I 単回投与試験実施中

S-555739: アレルギー性鼻炎モデルにおける薬効

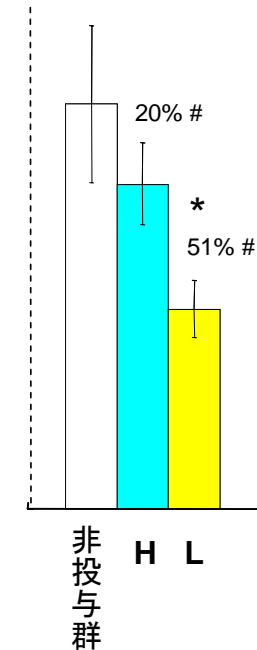


S-555739は、抗原で誘発される鼻閉を強く抑制し、その効果は、既存の抗アレルギー薬を大きく上回った

モルモットアレルギー性鼻炎モデル



H: 抗ヒスタミン薬
L: ロイコトリエン拮抗薬



: % inhibition,
*, **: P < 0.05, P < 0.01 vs. vehicle

- ◆ 適応疾患: 血小板減少症を伴う各種疾患
- ◆ トロンボポエチン受容体アゴニスト (経口)
- ◆ 非臨床試験結果より推定される薬効上の特徴
 - 1日1回の経口投与で, 高い有効性と安全性を示す
 - 食事の影響を受けない
 - 先行品と比較して緩やかな用量反応を示す
- ◆ 開発ステージ
 - Phase I 単回投与試験 (国内) 実施中
 - ・ 用量依存的にCmax, AUCが増加. 良好なPKプロファイルを確認
 - ・ 最高用量まで忍容性を確認

国内でPhase I 反復投与試験実施中

S-7701 (ピルフェニドン): 化合物プロファイル



- ◆ マルナック社 (米国) およびKDL社 (日本) より導入
- ◆ 対象疾患: 特発性肺線維症
- ◆ 抗線維化剤 (経口)
 - 肺活量の低下を抑制
- ◆ 希少疾病医薬品指定品目
- ◆ 申請: 2007年3月
 - 医療機関及び塩野義製薬の実地調査済
 - 2008年5月 American Thoracic Society (ATS) , Toronto
 - Phase III 試験の結果を公表

審査中

S-021812 (ペラミビル): 化合物プロファイル



- ◆ バイオクリスト社 (米国) より導入
- ◆ 抗インフルエンザウイルス薬 (ノイラミニダーゼ阻害剤) (注射)
- ◆ 特徴
 - A型およびB型インフルエンザウイルスに強い抗ウイルス活性を有する
→ 特にB型でタミフルに比し, 強い活性を示す
 - 高病原性鳥インフルエンザウイルス (H5N1) にも強い活性を示す
 - ノイラミニダーゼへの結合力が強く, 解離しにくい
→ 1回投与で治療効果が期待できる
 - 発症後48時間以上経過しても, 治療効果 (Delay投与) が期待できる
 - 通常のインフルエンザウイルス感染症から, 入院管理が必要な重篤なインフルエンザウイルス感染症まで幅広い適応
 - 米国保健社会福祉省は, 本剤の米国での開発に関し, バイオクリスト社に1億260万ドルの助成を決定.
 - 本邦においても, 優先対面助言品目に指定

国内でPhase III 試験準備中

◆ Phase II 試験 (静脈内投与) の結果

- 対象疾患
 - インフルエンザウイルス感染症
- 試験デザイン
 - 二重盲検, プラセボ対照, 多施設共同試験
 - 300 mg 及び 600 mg 単回投与
- 有効性
 - 二重盲検, プラセボ対照, 多施設共同試験
 - 主要エンドポイント(インフルエンザ罹病期間)において、プラセボとの優越性を確認
- 安全性
 - 良好な忍容性・安全性を確認

より高い市場性が見込まれる皮下投与製剤を検討中

Sciele Pharma 社の概要



- ◆ 1992年設立、2000年NASDAQ上場
- ◆ 米国ジョージア州アトランタを拠点として全米で事業を展開
- ◆ 循環・代謝領域、婦人科領域、小児科領域向け医療用医薬品の開発・販売
 - 開発パートナーから製造権・販売権を取得
 - 臨床後期にある開発品の確実な上市能力
 - 全米にわたる強力な販売網
- ◆ 従業員数：計920名（2007年12月末時点）
 - うち営業部門 770名

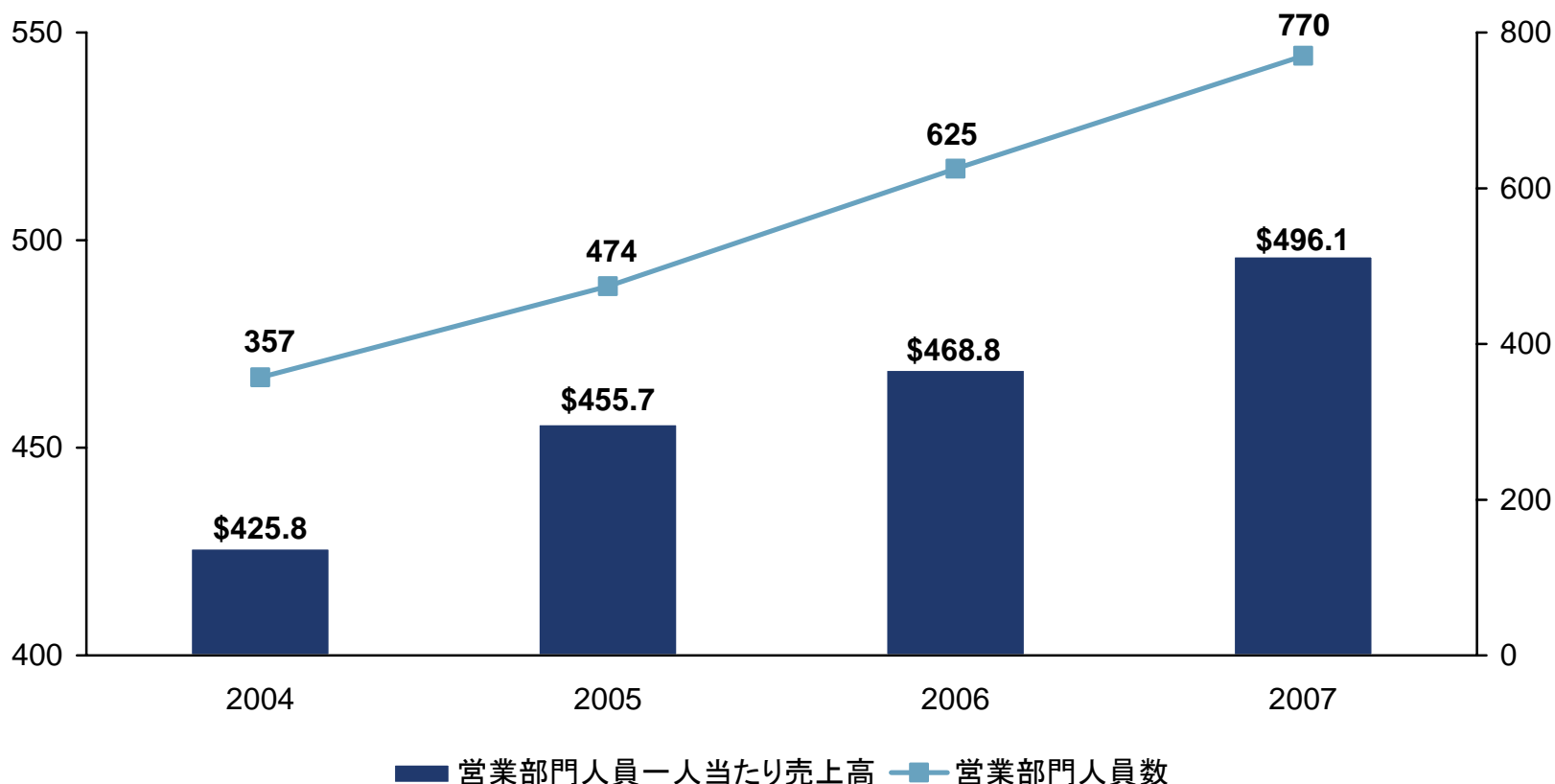
Sciele社の概要：営業部門人員の生産性



営業部門人員と一人当たり売上高の推移

(単位：千ドル)

(単位：人)



出所：会社開示資料、2007 SEC 10K Filings

Sciele社の概要:

製品ポートフォリオ・パイプライン及び販売体制



販売体制		主要製品	主要パイプライン
Sales Rep (718名)	循環器系 (223名)	<ul style="list-style-type: none"> •Sular CR (Nisoldipine) with Geomatrix Delivery System •Nitrolingual Pumpspray 	<ul style="list-style-type: none"> •CloniBID (フェーズⅢ) •Duochol (フェーズⅢ) •ADX-415 (フェーズⅡ)
	糖尿病 (174名)	<ul style="list-style-type: none"> •Prandin •Fenoglide •Fortamet •PrandiMet(今年度中に上市予定) 	
	婦人科 領域 (177名)	<ul style="list-style-type: none"> •Prenate Family (DHA and Elite) •Zovirax Ointment and Cream •Fosteum 	<ul style="list-style-type: none"> •PSD502(フェーズⅢ)
	小児科 領域 (144名)	<ul style="list-style-type: none"> •Allegra OS, Allegra ODT •Orapred ODT •Twinject •Methylin OS/CT 	<ul style="list-style-type: none"> •Xytril (フェーズⅢ Safety Trial完了) •Head Lice Treatment (フェーズⅢ) •Cloniceal (フェーズⅢ)

出所: 会社開示資料及びホームページ。人数はBank of America主催のHealthcare Conference (2008年5月13日)におけるSciele社のプレゼンテーション資料

Sciele社の概要: 経験豊富な経営陣



Patrick P. Fourteau

- ◆ Chief Executive Officer and Director
- ◆ Eli Lillyなどを経て合計25年以上の業界経験

Edward Schutter

- ◆ Chief Operating Officer
- ◆ Solvayなどを経て合計20年以上の業界経験

Joseph J. Ciaffoni

- ◆ Chief Commercial Officer
- ◆ Novartisなどを経て合計15年以上の業界経験。
2008年7月就任

Darrell Borne

- ◆ Chief Financial Officer
- ◆ Exxon/Mobilなどを経て合計20年以上の財務担当経験

Larry M. Dillaha M.D.

- ◆ Chief Medical Officer
- ◆ Sanofi-Aventisなどを経て合計15年以上の業界経験



Leslie Zacks

- ◆ Chief Legal and Compliance Officer
- ◆ 弁護士事務所Hunton & Williams LLPで15年以上の法務経験

出所: 会社開示資料、ホームページ

Sciele社の主要製品



製品名	領域	概要
<p>Sular / Sular CR</p> 	<p>循環器系</p>	<ul style="list-style-type: none">◆ Sularは血圧を低下させるDHPカルシウムチャンネル遮断薬であり、高血圧を24時間にわたって持続的にコントロールする◆ Sularの新製剤は2008年1月にFDAにより承認◆ Sularは、単独使用に加え、アンジオテンシン変換酵素阻害剤、β ブロッカー、利尿薬との併用も可能
<p>Nitrolingual Pumpspray</p> 	<p>循環器系</p>	<ul style="list-style-type: none">◆ 冠状動脈疾患に起因する心臓発作や胸痛に対する鎮痛作用を発揮する即効性のあるニトログリセリン経口スプレー。American Heart Associationによると、910万人のアメリカ人が同疾患に悩まされている◆ Nitrolingual Pumpsprayはシンプルかつ確実な投与方法で素早い鎮痛作用が得られるように工夫されている

出所: 会社開示資料、ホームページ

Sciele社の主要製品



製品名	領域	概要
<p>Triglide</p> 	<p>糖尿病</p>	<ul style="list-style-type: none">◆ Triglideは、高コレステロール血症や高トリグリセライド血症などの脂質異常症に対する効果を発揮する経口薬◆ 食後でも絶食状態でも投与することが可能であるため、患者が薬を内服するタイミングを自由に選ぶことが可能
<p>Fenoglide</p> <p><i>Fenoglide 120mg</i> (fenofibrate) tablets & 40mg With MeltDose® Technology</p>	<p>糖尿病</p>	<ul style="list-style-type: none">◆ Fenoglideは、上市されている脂質異常症および高トリグリセライド血症の治療薬のうち最も少ないフェノフィブラートの用量を含む◆ Fenoglideは吸収や生体利用率を高めるために開発されたLifeCycle PharmaによるMeltDose® 技術を利用しており、2つの用量の錠剤が販売されている

出所: 会社開示資料、ホームページ

Sciele社の主要パイプライン



製品名	領域	概要	
CloniBID	循環器系	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 製品 ◆ 適応 ◆ 市場規模 ◆ 効用 ◆ ステータス ◆ 特許 ◆ 機会 	<p>Extended release clonidine HCL</p> <p>高血圧</p> <p>2007年におけるクロニジン製品の処方は約1,300万件に上る</p> <p>眠気、鎮静作用のない12時間除放型製剤</p> <p>FDAによる承認予定日 (PDUFA date) : 2008年12月19日</p> <p>米国特許は2013年10月に失効する</p> <p>確立された高血圧治療薬が更に改善された製剤</p>
ADX-415	循環器系	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 製品 ◆ 適応 ◆ 市場規模 ◆ 効用 ◆ ステータス ◆ 特許 ◆ 機会 	<p>Centrally acting alpha agonist, specific for 2-alpha</p> <p>高血圧(単独投与または追加療法として利用可能)</p> <p>高血圧症を患う約2,000万人のアメリカ人が対象</p> <p>α2特異性による有害作用の減少</p> <p>2008年下半期に新薬臨床試験開始、フェーズ II 開始</p> <p>組成物に関する特許は2024年まで有効</p> <p>高血圧マーケットは成長しており、血圧コントロールが不良となっている患者も多数存在</p>

出所: 会社開示資料、ホームページ

Sciele社の主要パイプライン



製品名	領域	概要
Head Lice Treatment	小児向け治療薬	<ul style="list-style-type: none">◆ 初の医療用しらみ処方薬◆ 耐性なし◆ 使用法が容易<ul style="list-style-type: none">— 適用は10分間— 8日後に再度適用— ヘアコンディショナーと同様の頻度で利用◆ 本商品使用後も呼吸孔が開いたままとなるため、製剤が進入して呼吸孔を塞ぐことが可能
Xytril	小児向け治療薬	<ul style="list-style-type: none">◆ 150,000人の脳性麻痺患者が対象<ul style="list-style-type: none">— ダウン症など他の症状を持つ患者も重度のよだれ症状を抑制する必要あり(ライフサイクル管理(LCM)に有用)— 重度のよだれ症状を持つ患者のみに適応を限定した場合、脳性麻痺患者全体の約15%程度のみが対象となる— 同症状の代替治療薬としてスコポラミンパッチ等が挙げられる◆ 希少薬であるためプレミアム価格の設定が可能(WAC 1パイント(473ml)のボトルあたり572ドル、1年間に16回の詰め替え)◆ 7年間の独占販売権◆ 高いコンプライアンスで15%シェアを確保した場合、ピーク時の売上は175~200百万ドルとなる

出所: 会社開示資料、ホームページ

開発パートナーシップ



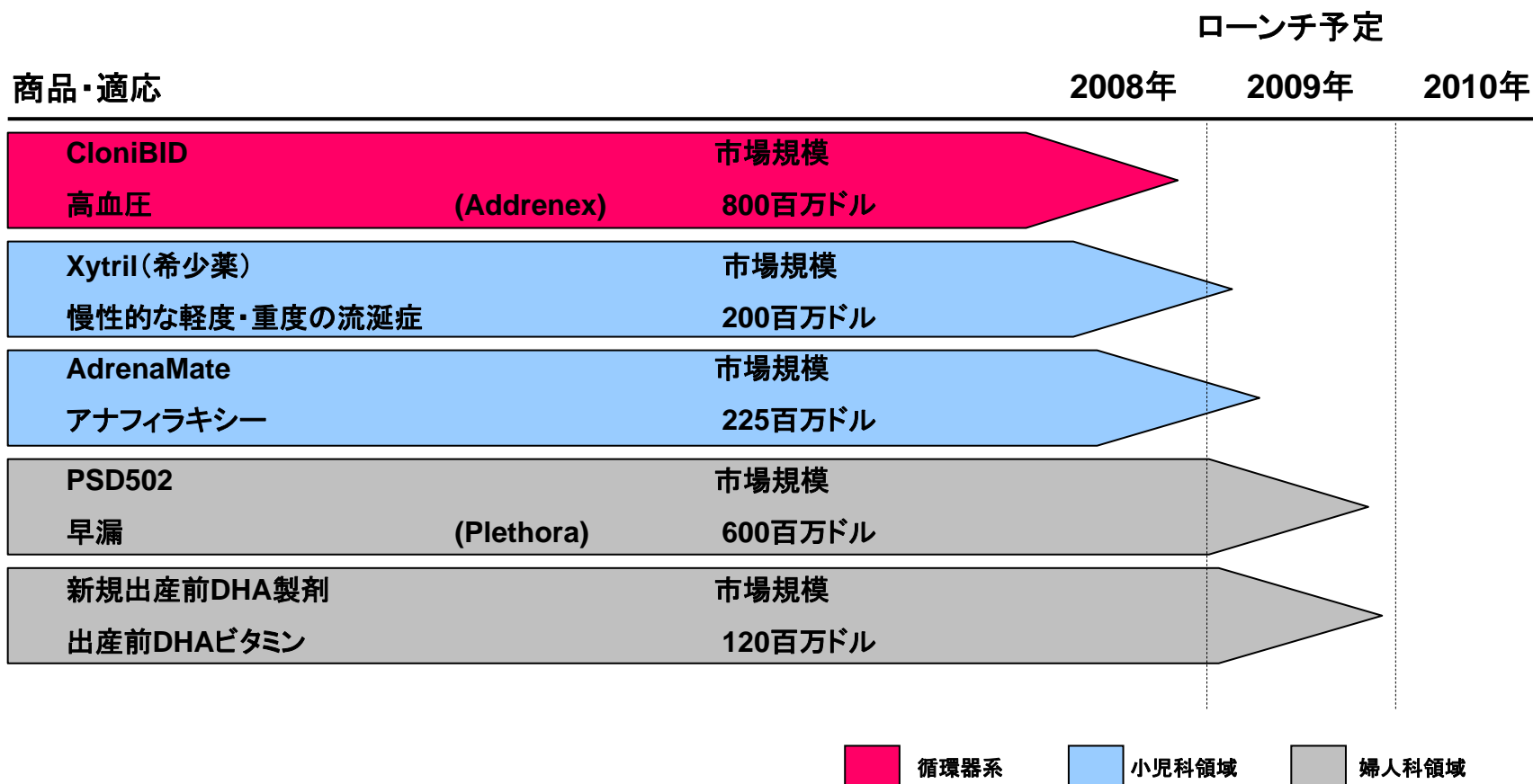
導入年	会社名	製品名	導入時のフェーズ	領域
2008	Addrenex	ADX-415	Phase II	循環器系
2007	Addrenex	CloniBID Clonicel	Phase III Phase II	循環器系 小児科領域
2007	Plethora Solutions	PSD502	Phase II	泌尿器科, PCP
2007	Summers Laboratories	Head Lice Treatment	Phase III	小児科領域
2006	Galephar	Duochol	Phase III	循環器系, PCP

出所: 会社開示資料

2009年度ローンチ予定のパイプライン



2009年ローンチ予定商品



出所: 会社開示資料、市場規模はIMS HealthのNPAデータに基づく